

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年4月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671100115
法人名	社会福祉法人 野の花会
事業所名	もうひとつの私の家なでしこ
所在地	鹿児島県南さつま市加世田村原1丁目9-6 (電話) 0993-53-8885
自己評価作成日	令和6年3月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所はその人の最期まで尊厳を保ち、日常生活の継続の中で最善を尽くし、その人らしい生活を続けられるようかかわり続け、そして本人、家族の思いを尊重した選択で、法人の他事業所、家族などと連携を行い、本人にとって最善のことをチームで考えるように努めている。お一人おひとりが「食」にかかわる様々なプロセスを通じて、「力」を発揮され、役割や楽しみ、喜びにつながるよう支援する。(一日一日が最良の日とだけ思っただけのような支援を積み重ねる。)そのためには、スタッフの「死生観」を育てる取り組みを継続している。

また、地域の人、これまで大切にしてくられた人や場所とのとの関係が途切れることのないよう、家族の協力を得て「外出」の支援を行う。感染症対策を行い、日常的な散歩だけでなく、本人の思いを大切に、お墓参り、懐かしい場所や、懐かしい人に会う機会を得られるようにする。このことにより、本人の意欲を高め、地域への認知症の人の理解にもつなげる。そして、地域の方々が気軽にホームに立ち寄り、相談できる窓口となることを目標として、これまで培ってきた認知症の人の理解や支援の技術を地域へ還元してゆく機会を増やしていきたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・母体である社会福祉法人野の花会は様々な老人福祉関連事業、系列の医療機関を運営し、地域の医療・福祉の拠点となっており地域交流も積極的に行っている。当事業所も自治会に加入し、地域清掃活動への参加、隣接の癒しの庭は地域住民へ開放し散歩や茶話会をする等、交流の場となっている。
- ・ケア基準書を作成し、人格の尊重とプライバシーの確保・身体拘束・虐待について、常に確認と振り返りを行い、法人の理念に沿ったケアを実践している。
- ・協力医療機関からの訪問診療、月1回全員歯科訪問診療と歯科衛生士による口腔ケアの指導、訪問看護による健康管理等、24時間連携体制で適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。
- ・管理者は職員とのコミュニケーションを大切に意見や提案・相談等を傾聴し、働きやすい環境づくりに努め研修の充実と資格取得奨励により資質の向上に努めている。
- ・コミュニケーションロボットや介護支援ロボットを導入し、介護負担の軽減に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人は開設当初より地域の中で、利用される方々の生活をさまざまなサービスで支援してきた。事業所としても理念の共有化のために年度毎に（リモート会議で）定例勉強会や定例スタッフ会議などで、学び話し合い、日々のケアに取り組んでいる。またお年寄りの尊厳を支え、理念を実践につなげている。	法人の事業所基本理念があり事業所内に掲示し、パンフレットに明示している。毎年、理念に沿って年間目標を掲げ、会議を通して確認と振り返りを行い理念に沿ったケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日々の暮らしの中でコロナ禍の中で感染対策を行い、道路清掃活動に参加し、散歩・「小さな菜園」での仕事・地域の人々に解放されている「癒しの庭」で、挨拶を交わしている。	自治会に加入し、回覧板で地域の情報を共有している。地域清掃活動への参加、最近では中止されているが地域行事への参加も積極的に行っていた。散歩時の挨拶や法人庭園での交流・花の差し入れ・介護に関する電話相談等、日常的に交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	法人はこれまで、地域へ向けての講演会や介護予防教室・ヘルパー講習認知症サポーター養成講座などを開催してきており、また、「認知症になっても安心して住める街、加世田」を目指し、「支援パス」の活用を行い、認知症の方とご家族、地域の方々への発信を続けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、紙面での運営推進会議を行っている。これまでに出生された意見や提案をもとに発展させた地域との交流（なんさつ高齢者文化祭へのちぎり絵の作品出品や、自治会行事への参加など）は来年度以降も継続して実施したい。	コロナ感染防止対策で2ヶ月毎に利用者状況・行事報告・活動報告等、書面でお知らせしている。対面での会議開催について検討中である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村担当者からの情報提供もなされている。グループホームの運営面についても日常的なやりとりができている。	定期的に運営推進会議資料として事業所の状況報告と電話での相談、必要に応じて直接出向いての相談や助言を得ている。市からの情報はファックスやメール、法人経由で共有し研修案内には積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人の理念に深く関わっており、取り組んできたことである。新人スタッフにも必ず理解を求める研修を行い、法人一丸で取り組んできたノウハウの継続に努め、ケアに取り組んでいる。また勉強会も行っており、スタッフも理解が出来ている。	指針・マニュアルを整備し、身体拘束廃止委員会を実施し、3ユニット合同で会議を開催、2ヶ月毎に勉強会を開催し、法人全体で取り組んでいる。スピーチロックを含め身体拘束ゼロを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の母体である特別養護老人ホームで開設当初から基本として取り組んできた実績があり、管理者・スタッフは採用後必ず基本として学ぶ環境にある。マニュアルもあり、現任職員の間でも勉強会で確認している。身体的虐待が無いことは当然であるが日常の言葉使い、スタッフの行いの中にも敬意を持ってあたるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>なでしこ入居の方で成年後見人を利用されている方がいる。後見人の方とも連携しご本人を支えている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際は管理者とケアスタッフで読み合わせながら説明を行い実際の暮らしの内容を十分に理解していただけるように対応を心がけている。また解約に関しては今後の不安のないように法人内の居宅のケアマネージャーと連携して対応している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居時に重要事項説明書により苦情相談窓口の担当者がいることを書類・口頭で説明しており認知症の症状により理解が困難な方に関しても、普段の会話の中からスタッフで汲み取る配慮をしている。また法人内に第三者委員も設置している。</p>	<p>利用者からは日常会話の中から思いを聞いている。家族からは電話連絡時や面会時に意見や要望を聞くようにしている。把握した意見や要望は職員間で共有し運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月、運営者・管理者を含む法人全事業所代表出席のリモート定例会を設けており、運営・サービス内容などにも協議している。その中で運営者の伝達事項、スタッフの意見を話し合いに反映させている。</p>	<p>朝礼や会議の場において意見や提案を聞く機会がある。日常的に発言しやすい環境となっている。毎月、法人全体の責任者会議がリモートで開催し、サービス内容について協議し運営に反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人において人事考課制度及びキャリアパス制度がすでに導入されており、職場環境の整備へ積極的に取り組みを行なっている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外でのウェブ研修を受ける機会が多く設けられている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人代表者と管理者が県の認知症介護指導者でもあることから、県内の同業者の研修施設として多くの方とのネットワーを広げている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談のあった時点で法人内共通のフェイスシートに本人の身体状況や環境・生活歴・相談内容を記入し分析するとともに本人の思いを大事にした関わりで不安の解消・望みの実現に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談のあった時点で法人内共通のフェイスシートに相談内容を記入し分析するとともに家族等の思いを大事にした関わりで不安の解消・望みの実現に努めている。又、介護疲れなどからくる体力的・精神的苦痛にも配慮した対応を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に関った居宅ケアマネジャー・ソーシャルワーカーとも協力し本人と家族に必要なサービスを見極めグループホーム入居までの支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の暮らしの中や、祭事等に関して行事の進め方、菜園作りなどお年寄りから教えられながら行っており、実際植物の成長を楽しまれ育てた野菜を調理に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしに関わっていただくことはもちろんであるが、家族と地域と楽しむ行事もともに計画を立てて実施している。家族状況に合わせて負担にならない配慮や介護に関する悩みの傾聴も行っている。また、家族などとの電話、手紙も欠かさずに連絡を取り合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お一人おひとりの想いに添い実現できるように支援に努めている。コロナ禍の中で、電話や手紙、タブレット端末などを活用して交流を行っている。	電話の取り次ぎや手紙等のやり取りの支援、ミニドライブでの自宅周辺へのドライブ、オンラインでの家族との交流等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地域の中で育まれた関係やホーム内で築かれた関係などに留意しその変化にも配慮して支援している。日々の暮らしが安定しお互いが支え合う環境になるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要介護度の変化や入院などで退去されても本人・家族がホームでの暮らしを希望されることが多く、法人内の他施設や居宅ケアマネージャーの協力も得ながら関わっている。またスタッフも施設・病院の訪問、電話などで近況の確認など行い本人・家族が不安にならないように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お一人おひとりの思いを大切にその方らしく暮らしていただくために本人・家族からの話しの傾聴はもちろんであるが、本人に関わる各専門スタッフからの情報・法人内共通の支援パスシートや生活歴・ライフスタイルを中心としたアセスメントを活用し把握に努め、本人の視点に立ち検討している。	アセスメントシート「私の気持ち・心の情報」を活用、不安や苦痛・うれしい事・悲しい事・やりたい事等を把握し、職員間で共有して。困難な場合は本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人おひとりの思いを大切にその方らしく暮らしていただく為に本人・家族からの話しの傾聴はもちろんであるが、本人に関わる各専門スタッフからの情報・法人内共通の支援パスシートや生活歴・ライフスタイルを中心としたアセスメントを行い、その方の人生を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の日常に関する把握は勿論であるがなでしこ入居後はモニタリングを行ないながら一日の過ごし方、心身状態、各専門スタッフからの情報取り入れ把握に努めている。日々の記録も行なっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフも交えた本人・家族との日々のやりとり（紙面や電話）・スタッフ間で毎日行われているミニカンファレンスの中で話し合われた内容、専門スタッフの意見なども反映し定期的なモニタリングと紙面でのサービス担当者会議で検討し、ケアプランを作成している。	本人や家族から意見を聞き、ミニカンファレンスで話し合い専門スタッフの意見を聞き担当者会議の内容を家族へ報告して介護計画を作成している。モニタリングは6ヶ月毎に。見直しも6ヶ月毎に実施している。変化時はその都度見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を行っており、毎日のミニカンファレンスにて情報の共有を図っており、次の計画に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なでしこでは多機能性は持ち合わせていないが、できるだけ本人の意向に沿いなでしこでの生活を支えている。法人の母体である特別養護老人ホームでは生涯を支えるサービスを整え柔軟な支援ができています。法人の他事業所と連携を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて支援されている。又ホーム全体でもいろいろな地域資源と協働できるように働きかけを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切に、今までのかかりつけ医との関係を継続出来るように支援している。また緊急時には協力医療機関の受診が行え、不安のないよう支援している。	月2回の往診、定期月受診と希望するかかりつけ医となっている。月2回の訪問看護利用、緊急時には母体医療機関の受診を行い、24時間医療連携体制が整っている。受診は家族の協力を得ながら必要時には職員が対応、主治医との連携を図りながら適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>同法人内の訪問看護ステーションと医療連携を契約したことで日常的に同センターの看護師に相談できる環境にある。また、かかりつけ医療機関の看護職の方にも日常の健康管理や医療について相談し支援をしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院後はできる限り早期に退院できるよう支援している。家族とは定期的に連絡を取りご本人、ご家族の退院後の不安がないよう支援している。同法人内のソーシャルワーカー・居宅ケアマネージャーとも連携し退院後のサービス利用について早期に相談援助をすすめている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>緊急時の対応も含めて、主治医、家族との話し合い、スタッフ間での話し合いを行っている。必要な方には、法人の代表者が自ら話し合いに加わり方針を共有している。同法人内のチームで行う定期的な会議にて情報を共有しながら今後の変化に対応するために、検討や準備を行っている。</p>	<p>指針・マニュアルを整備し、契約時に説明し、同意を得ている。状況に応じて主治医より説明を行い方針を共有している。法人内会議において意向を共有し、法人全体で意向に沿った対応を検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルもできており緊急対応されている。またケアワーカーも必要最低限の対応ができるよう研修を行い、運営者の指示も即適切に、受けられる体制にある。</p>	/	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>いろいろな場面を想定し定期的な防災訓練を行っている。スタッフ・市職員の防災意識も高く、日常的な安全点検を怠らず、また、地域の人々との良好な関係づくりを心掛け、協力を得られるように働きかけに努めている。</p>	<p>年2回、昼夜想定での総合避難訓練を行っている。法人内連絡網を整備し協力体制が整っている。法人で地域協力体制も構築している。備蓄は法人で管理し自家発電も完備、事業継続計画（BCP）も作成している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に深く関わっており、最も大切にしている部分である。新人スタッフにもまず初めに理解を求める研修を行い、慎重に取り組んでいる。またマニュアル、基準書で随時確認出来るようになっており、勉強会も継続して行っている。	ケア基準書・マニュアルを整備し、法人理念に深く関わっており新人職員への研修、接遇や人権擁護に関する研修等で周知徹底を図っている。一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	暮らしの中で同じ目線で話の傾聴を行い理解していただけるように対話している。又自己表示の困難な方にも表情や仕草から受け止め寄り添いながら自己決定を大切に、そして継続できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人のペースにあわせてゆっくり待つことを基本にその人らしく暮らせるように支援している。また、本人の希望を遠慮なく言える環境を整え、家族の協力を得ながら本人の思いに添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節にあった日々の身だしなみはもちろんであるが、外出時にふさわしいおしゃれも支援している。ホーム内での美容師の利用も行えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材選びの買い物から後片付けまでお一人おひとりの力を活かして一緒に楽しみながら行っている。また、「小さな菜園」での野菜などの植え付けから収穫をスタッフとともにやり、意欲につなげている。嗜好・栄養や郷土料理・季節感を大切に献立し配慮している。	法人栄養士の助言をもらいながら、嗜好や季節感のある食事を提供している。食事形態の工夫・代替え食の提供、行事食・あく巻・かからん団子・らっきょう漬け・梅干し作りを一緒に行う等、楽しみなものになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に残して把握している。栄養バランスについてもスタッフ勉強会での知識の共有を図り同法人の管理栄養士からの助言などで適切に確保できている。又、ホームで用意する食品以外の親しい方からのお心遣い・贈り物・買い物などの摂取量の把握にも努めその後の様子からバランスをとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	同法人内の歯科衛生士の指導によりおひとりお一人の口腔の状態・本人の力に合わせた支援を毎食後行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の誘導の必要な方は排泄パターンの把握に努め、適時にプライバシーに配慮を行い案内している。夜間も失禁の不快感がないようにお一人おひとりに合わせて適時案内を行っている。昼夜を問わずオムツ・リハビリパンツの使用をしない排泄に取り組んでいる。	排泄チェック表を基に声かけやナースコールにてトイレでの排泄を基本に支援している。パットも用途に合わせて使い分け、居室にトイレが設置されておりプライバシーにも配慮している。おむつから布パンツとパット使用に改善された事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼ることなく適切な食事・運動・水分補給で下剤を使わない便秘予防に取り組んでいる。水分は体重にもよるが、1日に1500CCを目標にその方に応じて朝の冷たい牛乳・お茶寒天も取り入れている。以前、薬を処方されていた方も医師と相談しながら減らしていき自然でスムーズな排泄のリズムを取り戻されている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日、年中いつでも入浴できる体制となっており、時間帯に関しても、現在は主に午後からの入浴が多いが24時間、希望があれば入浴できる。体調不良でなければ 個浴でゆっくり楽しんでもらう。体調不良でなければ 個浴でゆっくり楽しんでもらう。体調不良でなければ 個浴でゆっくり楽しんでもらう。体調不良でなければ 個浴でゆっくり楽しんでもらう。	入浴は1日毎に実施、希望があれば何時でも入浴できる体制となっている。拒否のある場合は声かけの工夫や時間差、翌日に変更など臨機応変に対応している。ゆず湯やしょうぶ湯等、楽しんでくつろげる気分を大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりに合わせて対応されている。休息に関しても閉じこもり・孤独感に配慮し、見守りを行い昼夜逆転につながらないように気持ちの良い睡眠につなげる努力をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示により正確に服用されるように、お一人おひとりの服薬関連のファイルを作成、毎日の服薬状況を記入し、令和2年11月より服薬支援システムを導入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や生活歴から役割・楽しみを共に模索し支援し常に自信を高めるような言葉かけや働きかけを行い喜びにつなげている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	これまでは、毎日の買い物・散歩やドライブ・外食・地域行事への参加・家族との外出など選択肢を多く、本人の希望に添い支援してきたが、コロナ禍の中で一人ひとりの想いに添い、暮らしの中に根ざした商店へ通い、親戚・家族の行事、地域行事への参加が困難であった。手紙や電話、タブレットの活用などで工夫した。	季節行事としての花見や神社参り・ミニドライブ・家族との外泊や外出を支援している。コロナ感染対策で難しい状況が続いており、花見のドライブも車中からの初詣やホーム前にある癒しの庭への散歩や茶話会で楽しんでいる。電話の取り次ぎや手紙などのやり取りの支援、オンライン交流等を工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており金銭の管理が出来ない方も家族の理解を得て、小額のお小遣いを持っていただき買い物時に、ご本人がお財布からお金を出し、好みのものが購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の取次ぎや手紙・ファックスの受け取りはもちろんであるが個人で電話が自由にできるように家族とも連携を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節・天候や時間に合わせて配慮している。調度や備品は入居者にふさわしい品を配慮して調え、物品も入居者の意見を取り入れた電化製品などを準備しており、フロアの装飾も入居者の手作り作品など配置したりと家庭的な雰囲気になっている。また、季節行事の馴染みの装飾・楽しい装飾など入居の方とともに楽しんでいる。	共用空間には季節の花や絵画を飾り、観葉植物・民芸調家具を置き、照明と窓からの採光で明るく落ち着いた雰囲気となっている。リビングには空気洗浄機・加湿器・エアコン・適時の換気により空調管理がされ、テーブル・椅子・ソファ・移動式仏壇を置き、ゆったりと居心地よく快適に過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・廊下のスペースをソファや予備の椅子、観葉植物や季節の草花などで必要に応じた模様替えが行えるようになっており各々に和やかな語らいの場や穏やかにひとりで過ごせる空間も確保できている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的な家具はホームにて準備しているが、持ち込みは自由である。家族の協力により、大切なもの・思い出の品・使い慣れた道具などの持ち込みもあり安心して過ごされる居室の環境が整っている。入居時にご家族へも馴染みの物を持参するように呼びかけている。	居室にトイレと洗面台があり、プライバシーが守られている。ベッド・エアコン・タンス・ドレッサーが備え付けられ、それぞれが使い慣れた椅子等を持ち込み、手作りの作品や家族の写真等を飾っている。窓にはプランターの花があり、落ち着いて過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	居室や共有空間の装飾は明るい優しい色彩を使用し、和らいだ気持ちの中で過ごせるように配慮しており、また、お一人おひとりの身体機能の変化に合わせ、ケアの内容とともにPT・専門スタッフと検討し 安全を保ち自立した生活を送れる環境づくりを行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない